

1972年から現在

❄️ 札幌と1972年オリンピック

- 札幌1972大会は市民の誇りとアイデンティティを形成し、大会を契機に都市整備を推進、国際観光都市としての地位を確立
- 札幌はオリンピックをきっかけに発展し国内有数の都市にまで成長

1972年に札幌で開催された冬季オリンピックは、札幌のウインタースポーツシティとしてのプレゼンスを高め、国際化に大きく貢献するとともに、札幌のまちを大きく変え、市民の誇りとアイデンティティの形成につながりました。

札幌はこの大会を契機として、地下鉄南北線や地下街、高速道路や市内の道路網、環境に配慮した地域熱供給等、今も活用されているまちの基盤整備が進みました。

また、当時のさっぽろ雪まつりの様子が、大会の映像とともに世界中で紹介されたことをきっかけに、国内外から多くの観光客が訪れるようになり、国際観光都市としての地位を確立しました。

このように、札幌のまちは、オリンピックをきっかけに大きく発展し、今や約200万の人口を抱えるとともに、市民の愛着度調査や全国市町村魅力

度調査で常に高い評価を得るなど、名実ともに国内有数の都市と言えるまでに成長を遂げました。



©札幌市公文書館所蔵

❄️ 札幌が抱える課題

- 札幌は人口減少・少子高齢化への対応、共生社会の実現、インフラの更新、気候変動対策等の取組が必要

オリンピック・パラリンピックは、子どもたちに夢や希望を与え、世界平和や団結に貢献し、多様性への理解を促すだけでなく、開催地のまちの活性化を促します。

経済や社会制度が高度に発展し、必要なものやサービスが満たされた成熟都市へ成長した現在の札幌は、世界中から多くの観光客をひきつけ、また、多くの市民が住み続けたいと願う、内外から羨望の眼差しを送られる魅力に満ちた都市となりました。

一方で、人口減少・少子高齢化といった社会構造の変化や、共生社会実現のためのバリアフリー化の推進、

1972年前後に急速に整備され老朽化が進んだインフラの更新、世界的に直面している気候変動への対策等、今後も魅力あふれるまちであるために解決しなければならない多くの課題を抱えています。

また、北海道は、札幌への人口等の一極集中が顕著となっており、私たちを取り巻く状況の変化に先んじて対応しなければならない地域であると言えます。

これからの前例のない時代を迎えるにあたっては、一人ひとりが直面する変化を認識し、知恵をしばり、力を結集する必要があります。



2030年は先の未来を見据えた札幌ならではの大会に

- オリンピック・パラリンピックは、大会の開催を契機として多くの力を集め、人々の思いを一つに束ねる世界最大級のイベント
 - 四季の明瞭な札幌で気候変動に関する取組を結集
 - 札幌ならではの文化を通じ子どもたちが夢や希望を抱くまちの実現
- 2030年までの期間は、札幌が持続可能なまちであるための礎を築いていく大切な道のり
- 都市と自然が調和した雪のまちでSDGsの先の未来を展望する大会へ

オリンピック・パラリンピックは、大会の開催を契機として、市民、企業、行政等多くの力を集め、人種や性別、国籍の垣根を越えた人々の思いを一つに束ねることのできる世界最大級のイベントです。

大会の開催を通じて、多くの人々の力と思いを結集することで、既存の考え方にとらわれない発想の転換と先進的な取組を生み、ひいては、それが持続可能な社会を目指すための絶好の機会を生み出します。

例えば札幌は、都市機能と自然が調和した世界的にもまれな都市であり、1年の間に、雪解けの草花が芽吹く春、冷涼な気候で過ごしやすい夏、雄大な自然が織りなす紅葉が彩る秋、美しい銀世界に包まれる冬といった、四季折々の景色を感じられるまちです。このような札幌だからこそ、気候変動の脅威を身をもって感じることができ、オリンピック・パラリンピックを契機とした先端技術の導入や、市民一人ひとりの環境行動、意識の変容が期待できます。

また、子どもたちが、世界最高峰の競技の迫力やスピード感を目の当たりにすることで、「自分もやってみたい、頑張りたい!」という気持ちが芽生えます。ウインタースポーツという、冬期は雪に包まれる札幌ならではの文化を通じて、子どもたちが夢や希望を抱くことのできるまちの実現につながります。

札幌市が開催を目指している2030年のオリンピック・パラリンピックは、SDGs(持続可能な開発目標)の目標年と同じ年です。その先の未来において、この成熟した都市、札幌が持続可能なまちであるためには、大会後の2031年以降にあるべきまちの姿を見据え、大会の開催とそれに至るまでの一連の取組を連動して進めていくことが必要です。これから2030年までの期間は、その礎を築いていく大切な道のりと言えます。

オリンピック・パラリンピックは、出場するアスリートはもちろんのこと、テレビの前や会場などあらゆる所で観戦する私たちにもワクワクを与えてくれる夢の舞台です。大会をきっかけにアスリートを志した子どもたちも、今までにたくさんいたでしょう。この大会は夢や希望はもちろん、まちの未来にも影響をもたらすイベントです。

市民の笑顔があふれるこの札幌が、50年後、100年後の将来にわたって輝き続けるために、初のパラリンピック、2度目のオリンピックで「都市と自然が調和した雪のまちでSDGsの先の未来を展望する大会」の実現を目指します。

そして、この大会が実現することで、市民が愛着と誇りを持ち、将来も住み続けたいと思うと同時に、誰もが訪れたいと思うまちを創り上げたいと考えています。



招致表明～現在

- 2013年 9月 ○ 市議会で、市長が招致検討を表明。
- 2014年10月 ○ 1万人の市民アンケートを実施(アンケート結果:賛成66.7% 反対20.6%)。
- 2014年11月 ○ 市議会が「2026年冬季オリンピック・パラリンピックの札幌招致に関する決議」を可決。
市長が2026年冬季オリンピック・パラリンピックの招致を表明。
- 2016年11月 ○ 日本オリンピック委員会(JOC)に対し、開催提案書を提出し、計画を公表。
- 2017年11月 ○ 開催地に立候補するにあたり、国際オリンピック委員会(IOC)との対話ステージに参加。
対話ステージではIOCから様々な指摘や助言がなされた。
- 2018年 9月 ○ 北海道胆振東部地震の影響、札幌駅周辺のまちづくりの状況や北海道新幹線の札幌延伸を踏まえ、
2026年大会に向けた招致活動を終了し、2030年大会へ向けて活動を継続。
- 2020年 1月 ○ JOC理事会において、札幌市が2030年冬季オリンピックの国内候補地に決定。
- 2021年11月 ○ 2030北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要(案)の公表。
- 2022年 3月 ○ 郵送調査、インターネット調査、街頭調査の3つの手法で意向調査を実施。
〔 郵 送 調 査 : 賛成52.2% 反対38.2% 〕
〔 インターネット調査 : 賛成56.5% 反対26.2% 〕
〔 街 頭 調 査 : 賛成65.5% 反対26.2% 〕
市議会が「2030年冬季オリンピック・パラリンピックの北海道札幌招致に関する決議」を可決。
- 2022年 5月 ○ 北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会を設置。
- 2022年11月 ● これまでの招致活動や市民との対話を踏まえ、大会概要(案)を更新。

計画の更新

❄ 開催提案書の公表【2016年11月】

札幌で冬季オリンピック・パラリンピックを開催した場合、どのような大会にするのかを記載した開催提案書を作成し、JOCへ提出するとともに、その計画の内容を公表しました。

❄ 対話ステージへの参加【2017年11月】

IOCから、まちづくりと連動しながらも、次世代に過度な負担を残すことのない計画とするよう、指摘・助言を受けました。

❄ 市民対話事業の実施【2019年9月～10月】

2030年大会に目標を変更したうえで、これまでの指摘・助言を踏まえた計画の変更点をお示しし、大会招致に対する市民の皆さまの期待・懸念を把握するワークショップや、これらのご意見を振り返るシンポジウムを開催しました。

❄ 大会概要案の公表【2021年11月】

2026年大会招致プロセスにおけるIOCとの対話や、2019年に実施した市民対話事業等を経て、随時、計画の更新を行ってきました。

その後の新型コロナウイルスの影響で史上初めて延期され、ほとんどの会場で無観客開催となった東京2020大会の実施状況等も踏まえて見直した、「2030北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要(案)」を公表しました。

❄ 市民対話事業の実施【2021年11月～】

公表した大会概要案をもとに、改めて大会招致に対する市民の皆さまの期待や懸念を把握するためにオリパラ出前講座やワークショップ、シンポジウムを開催しました。

2022年3月には意向調査を行い、大会招致への賛否やその理由を把握することができました。また、オリパラ出前講座については、現在も開催中であり、2021年11月から計195団体、7,263人(2022.11.1時点)に対して実施してきました。引き続き、たくさんの市民の皆様の声を把握しながら、計画の検討を進めていきます。

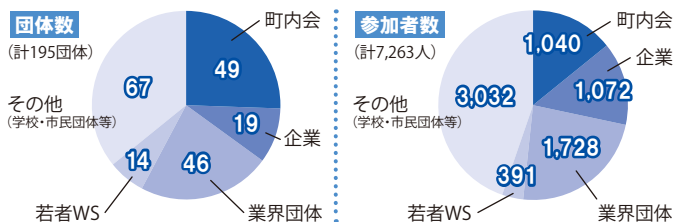
市民意見を計画に反映

2021年11月に「2030北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要(案)」を公表し、同年11月からワークショップやオリパラ出前講座などの市民対話事業を実施してきました。加えて、3月には郵送、インターネット、街頭の3つの手法で市民意向調査を行い、オリンピック・パ

ラリンピックに期待することや懸念すること、招致賛成の理由、反対の理由などたくさんのご意見をいただきました。

今回の計画更新は、より理解を得られるものとすることを目指し、これまでに市民の皆さまからいただいたご意見も反映しています。

オリパラ出前講座・ワークショップ実施状況 (R3.11.30~R4.11.1)



市民意見

- まちづくりとの関係性が分かりにくい
- 大会開催によってどのようなメリットがあるのかが分かりにくい
- 子どもたちに夢と希望を与える
- 間近で観戦した一流選手に憧れ、競技を始めるきっかけになる大会
- 北海道・札幌のPRにつながる
- 雇用創出や経済効果が期待できる
- 障がいのある方が暮らしやすいまちになってほしい
- LGBTQの方が安心して暮らせる街になってほしい
- 子育てのしやすいまちになってほしい
- 緑豊かな自然を感じやすいまちになってほしい
- 過ごしやすい気候で天候による災害が少なくなっていてほしい

- 観客として応援したい
- ボランティアとして大会を支えたい
- 技術を世界に対してアピールできる場に札幌がなれたら素晴らしい

- 開催に多額の予算が必要
- 他の施策に注力してほしい
- 北海道・札幌市のみで解決が難しい災害や感染症など不測の事態への対応が不安

まちづくりと大会がどのように連動するのか、次期まちづくり戦略ビジョンとの関係性を整理

P9~12 第2次まちづくり戦略ビジョンとの連動

大会がどのようなメリットをもたらすのかが分かりやすく伝えるため、レガシーを実現するための具体的な取組や目標を整理

P13~20
「スポーツ・健康」「経済・まちづくり」「社会」「環境」、各分野のレガシーと具体的な取組

多くの市民・企業の参画につなげていくため、東京2020大会での具体的な参画事例を紹介

P21~22 市民・道民・企業の参画

市民の不安解消、理解促進を図るため、施設整備費や大会運営費の考え方とその内訳を掲載

P33~53 競技会場・非競技会場の紹介
P59~62 施設整備費・大会運営費の試算

市民の不安解消につなげるため、大会運営における大雪対策や感染症対策などを掲載

P55~58 大会運営

招致スローガン・大会コンセプト

❁ 招致スローガン

世界が驚く、冬にしよう。

誰も見たことがないような、新しいオリンピック・パラリンピックで、
世界中の人々を驚かせたい。

天然雪に恵まれた舞台から生まれる、
アスリートたちの卓越したパフォーマンス。
地球を守り、自然と美しく調和する、これからの都市と暮らしの在りかた。
あらゆる違いを尊重し、認め合う社会。
これらを実現し、世界と分かち合う。

これまでの常識を超えたオリンピック・パラリンピックに、
みんなで挑戦し、ともに作りあげていきます。

招致スローガン・大会コンセプト策定について

北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会(※)では、これまでの議論を踏まえ、開催意義を端的に表した「大会コンセプト」と、目指す大会招致の方向性を一言で表した「招致スローガン」を2022年10月に策定し、今後の理解促進や機運醸成に活用することにしました。

また、「招致スローガン」の策定にあたっては、同委員会にワーキンググループを設置し、大学生などにも外部メンバーとして参加してもらい若い世代の声を反映させるとともに、多くの市民・道民・国民にも参加いただけるよう、インターネット応募キャンペーンを実施しました。

※北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会

札幌市と日本オリンピック委員会(JOC)が、札幌、北海道はもとより全国、さらには世界に向けて、大会の開催意義や価値を伝え、多くの理解と共感を得ながら、オールジャパンで招致機運を高めることを目的に、2022年5月に設置しました。定期的な会合を通じて、専門的な立場から大会招致に向けた理解促進や機運醸成に対する助言をいただいています。

❄️ 3つの大会コンセプト

● 天然雪を守り、北海道・札幌から、世界に誇れる大会に。

札幌、北海道の豊富な天然雪と豊かな自然は、
世界を魅了し続ける私たちの誇り。
SDGs「行動の10年」、気候変動対策「勝負の10年」の目標となる2030年へ、
私たちの誇りを守り、雪と氷の上で躍動するアスリートの姿をみて、
夢や希望を描ける未来を子どもたちに残したい。
私たちのアイデアと行動の輪を、北海道・札幌から世界へ。

● 私が自分らしく生きられるまちで、社会で、誰もが参加できる大会に。

誰もが生涯健康で、人種、肌の色、性別、性的指向、性自認、
言語、宗教、障がいの有無などに関わらず、
互いを認め、協力し合える私たちのまちに、社会にしたい。
ジェンダー平等を進め、初のパラリンピックでアクセシビリティの向上した、
冬でも誰もが快適に暮らせるまちに。
アイヌの人々とともに、2030年、北海道・札幌で多様性が生み出す価値を世界と分かち合い、
一人ひとりが主役となる大会にしたい。

● 北海道・札幌が挑戦する、私たちの新しい大会に。

既成概念にとらわれない、新たな挑戦。大会を、私たちのまちに合わせて開催。
大会のための恒設会場はつくらず、徹底的に合理的な計画で、
世界のアスリートが凌ぎ合い、たたえ合う、スポーツの本質と価値に集中。
2030年、私たちの想像力と創造力で、人々に卓越した体験を届け、
歴史の転換点だったと人々が記憶する大会に。